

徳島信用金庫の本店・本部の建替え

ポイント

- 徳島信用金庫は、築50年を超え老朽化が著しかった本店・本部を新築移転し、2025年7月、新本店・本部をグランドオープンしている。
- 新本店・本部は4階建てで、1階が本店営業部、2階に多目的スペース、3～4階に本部機能を配置する。またBCP対策や環境対策にも力を入れている。
- 新本店・本部は地元徳島の伝統文化を取り入れ、「一番相談しやすい金融機関を目指そう！」のスローガンを反映したつくりとなる。
- 新本店・本部に対する外部からの評価は高く、これまで「日本空間デザイン賞 2025」や「第59回日本サインデザイン賞」を受賞している。

1. 建替えの経緯

徳島県徳島市に本店を置く徳島信用金庫（図表1・2）は、本店・本部を新築移転し、2025年7月に新本店・本部としてグランドオープンした。旧本店・本部は築50年を超え老朽化が著しく、同金庫は建替えのタイミングを模索していた。特に今後発生が想定される南海トラフ地震に備えたBCP対策を考慮すると、1階および地下に設置していた電気設備や自家発電機の見直しが課題となっていた。また、本部の執務フロアが複数に分散しており、業務効率の面でも課題を有していた。

そこで同金庫は旧本店・本部の近隣に用地を取得し新本店・本部として移転建替えすることとした。途中、建設コストの上昇が顕在化した。設計監理・施工を担当した清水建設との信頼関係のなか、2025年7月のグランドオープンに至っている。なお、旧本店・本部の建物は売却予定である。

（図表1）同金庫の概要（24年度末）

本店所在地	徳島県徳島市
創業	1928(昭和3)年2月15日
預金残高	2,070億円
貸出金残高	957億円
店舗数	17店舗
常勤役員数	203人

（図表2）新本店・本部の外観



（備考）図表1から4まで信金中金総研作成・撮影

2. 新本店・本部の概要

新本店・本部は4階建てで、1階が本店営業部、2階が多目的スペース(しんきんSpace)、3～4階は本部機能となる。本部執務フロアを3階に集約し、4階には理事長室や応接室を構える。BCP対策の面では電気設備や自家発電機を屋上に設置したほか、多目的スペースは災害時の一時避難所として開放可能なレイアウトとした。また、環境対策の面ではBELS評価(第三者評価)で高い省エネ性能を示す「ZEB Ready」の認証を取得している。

3. 特徴的なデザイン等

同金庫の新本店・本部は、役職員が主役となって顧客との信頼関係や職員同士の結び付きを育む場を目指しており、特徴的なデザインを盛り込んだ。新本店・本部の外観は糸巻き文様の「千切り(ちぎり)」をイメージし、外壁をなだらかな曲線で構成している。

本店営業部は、県内各地にある伝統文化「阿波農村舞台」に見立て、水引幕をモチーフにした装飾を施したほか(図表3)、執務フロアを含む内装は県産材を積極的に採用するなどしている。そのほか職員食堂や屋上フロアを含め、職員の働きやすさやエンゲージメント向上にも工夫を凝らしている(図表4)。

4. 今後の展開

同金庫は「一番相談しやすい金融機関を目指そう!」をスローガンに掲げており、今回の新本店・本部のグランドオープンを契機に、更なる地域密着経営を実施していく考えである。

なお新本店・本部のデザインなどに対する外部機関の評価は高く、「日本空間デザイン賞2025」や「第59回日本サインデザイン賞」を受賞している点も見逃せない。

(図表3) 本店営業部



(図表4) 屋上フロア



本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断をお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。